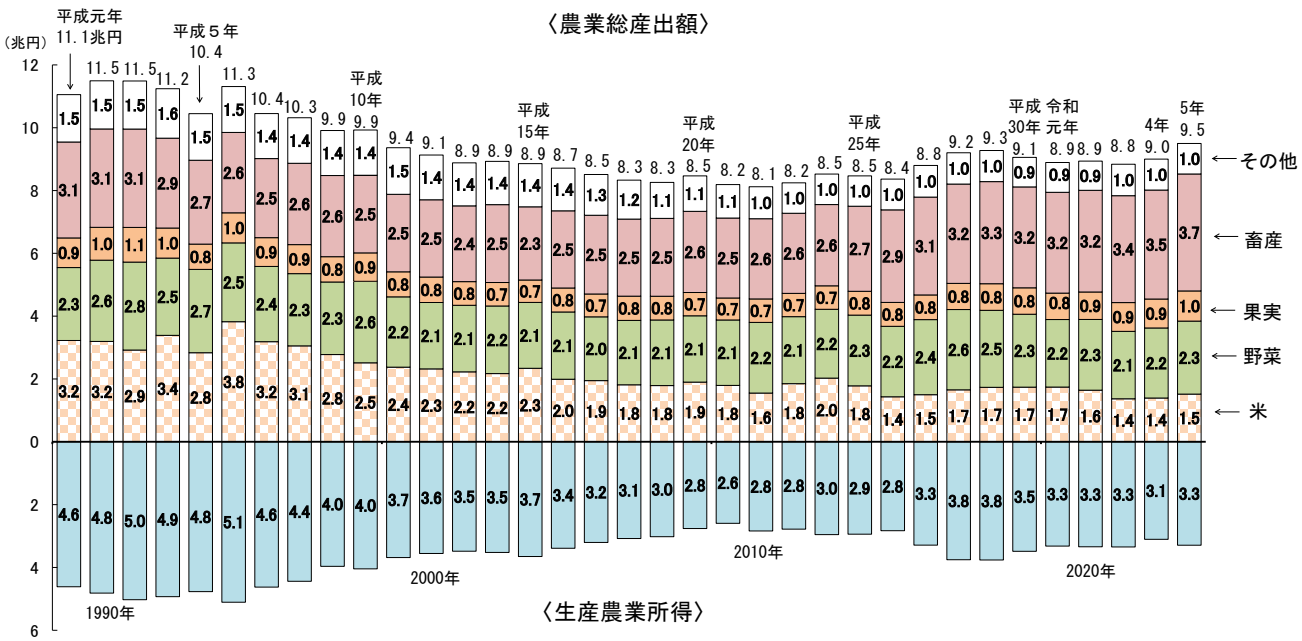
1　農業総産出額及び生産農業所得（全国推計）

(1)　令和５年の農業総産出額は、耕種では米や野菜、畜産では鶏卵の価格が上昇したこと等から、前年に比べ4,968億円（5.5%）増加し、９兆4,952億円となった。

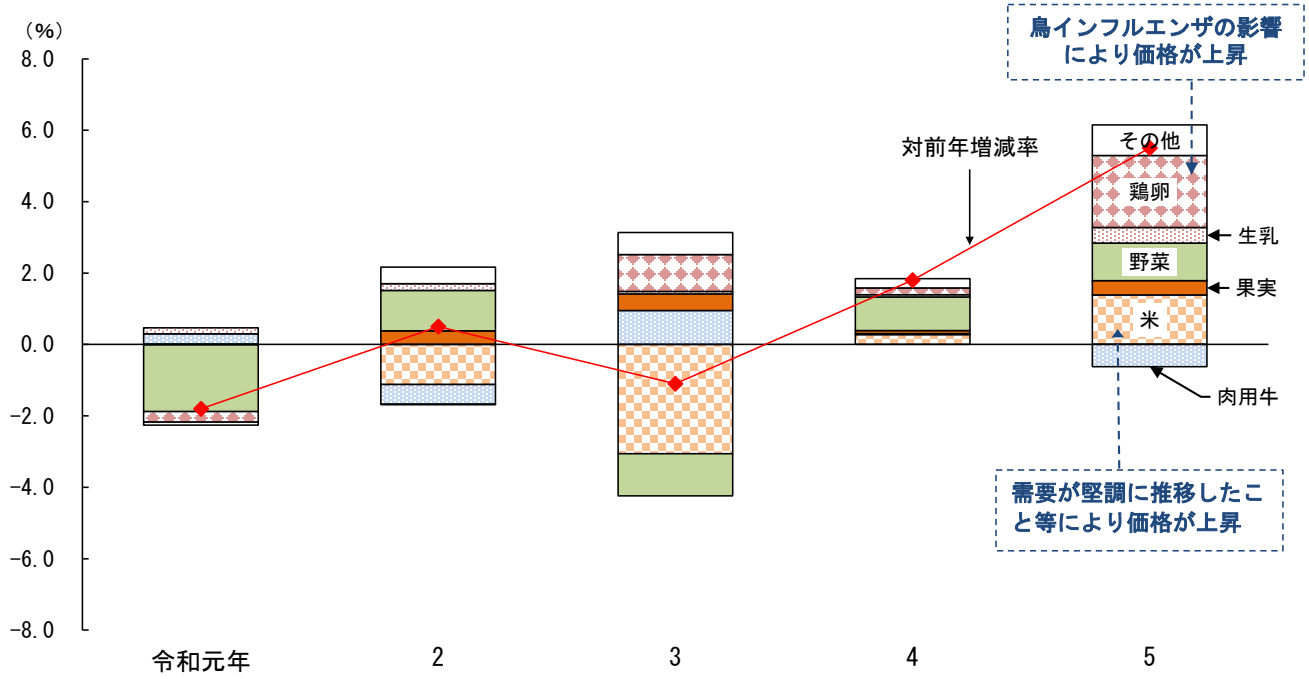
(2)　令和５年の生産農業所得は、農産物の価格が上昇したこと等から、前年に比べ1,877億円（6.0%）増加し、３兆2,921億円となった。

図１　農業総産出額及び生産農業所得の推移



注：表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

図２　農業総産出額の対前年増減率と部門別寄与度の推移



【関連データ】

主要農産物の輸出額の推移

区　　分	令和元年	2	3	4	5	対前年増減率	
						4/3	5/4
	億円	億円	億円	億円	億円	%	%
農林水産物 計	9,121	9,256	11,626	13,372	13,581	15.0	1.6
農産物 計	5,878	6,552	8,041	8,862	9,059	10.2	2.2
うち 米	46	53	59	74	94	24.4	27.5
野菜	110	122	130	162	158	24.6	△ 2.3
うち かんしょ	17	21	23	26	27	12.6	2.2
果実	335	323	440	517	513	17.6	△ 0.8
切花	9	8	13	15	17	12.7	12.8
植木等	93	106	69	74	62	6.6	△ 15.6
緑茶	146	162	204	219	292	7.2	33.3
牛乳	14	18	18	20	18	12.3	△ 8.0
牛肉	297	289	537	513	570	△ 4.3	11.0
豚肉	11	18	20	19	21	△ 4.8	10.5
鶏肉	19	21	13	10	14	△ 21.7	35.2
鳥卵・卵黄	24	47	60	86	70	42.5	△ 18.3

資料：農林水産省輸出・国際局「農林水産物輸出入概況」

注：１　金額は、ＦＯＢ価格（Free on board、運賃・保険料を含まない価格）である。

２　対前年増減率は、原数値（千円単位）で算出した数値である。

３　米には援助米を含まない。また、野菜・果実には調製品、牛乳には部分脱脂乳、牛肉・豚肉・鶏肉にはくず肉を含む。

４　植木等とは、植木類、盆栽類及び鉢物類である。

(3)　部門・品目

ア 米

国内の人口減少や多様化する消費者ニーズ等を背景に主食用米の需要の減少が進む中、令和２年以降、主食用米の取引価格が軟調に推移したこと等から、米の産出額は減少傾向で推移してきたが、令和４年は主食用米の価格が回復したこと等により増加した。

令和５年は、前年に比べ 1,247 億円（8.9%）増加し、１兆 5,193 億円となった。

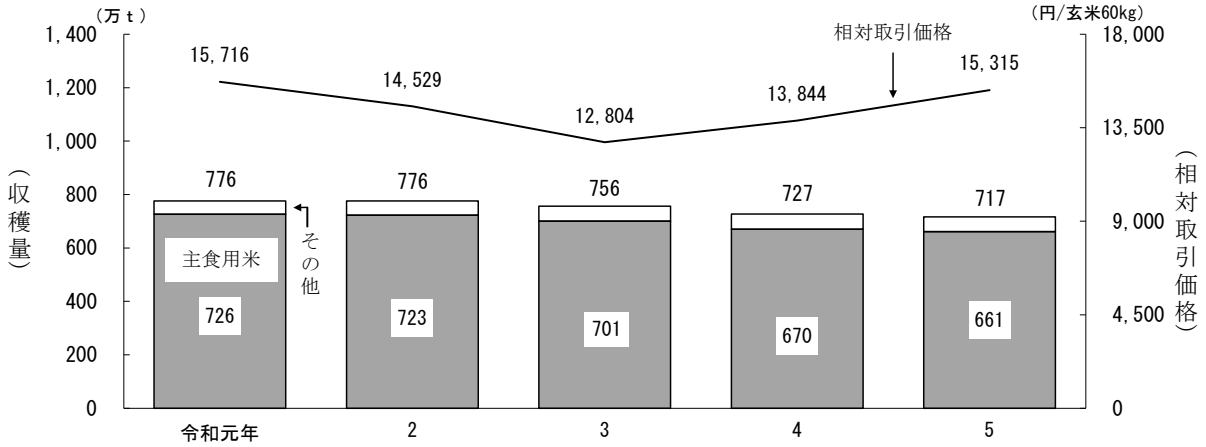
これは、令和５年産米の需要が堅調に推移したこと等により、民間在庫量が減少し、主食用米の取引価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表１　米の産出額の推移

区分	単位	令和元年	2	3	4	5
実額	億円	17,426	16,431	13,699	13,946	15,193
対前年増減率	%	0.1	△5.7	△16.6	1.8	8.9

【関連データ】

１　米の収穫量及び主食用米の相対取引価格の推移

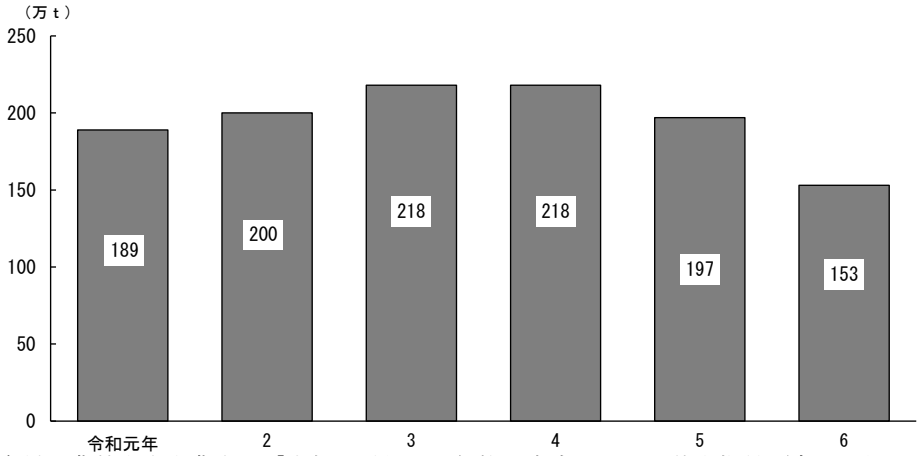


資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び農林水産省農産局「米の相対取引価格・数量」

注：１　相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年 10 月までの通年平均価格である。

２　収穫量の「その他」は、備蓄米、加工用米、新規需要米等である。

２　民間流通における６月末在庫量の推移



資料：農林水産省農産局「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（令和６年 10 月）」

注：うるち玄米及びもち玄米を合算した値である。

イ いも類

ばれいしょ及びかんしょの作付面積が減少傾向で推移する中、ばれいしょにおいてポテトチップ用等の加工食品向けに国産品を求める実需者ニーズが高まっていることや、かんしょにおいて国内外における焼き芋等としての堅調な需要により、令和２年以降、いも類の産出額は2,000億円を超えて推移してきた。

令和５年は、前年に比べ102億円（4.6%）増加し、2,301億円となった。

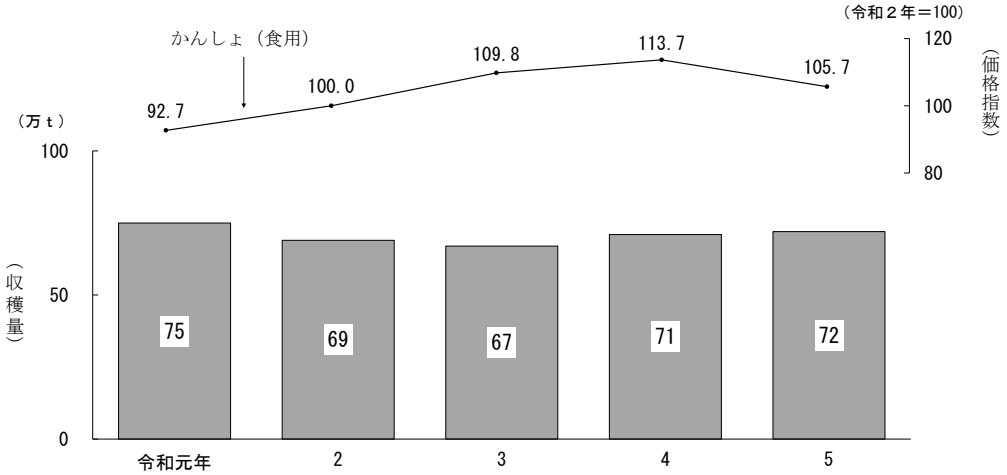
これは、かんしょにおいて需給の緩和により価格が低下したものの、ばれいしょにおいて主産地の天候に恵まれたことから、生産量が増加したこと等が寄与したものと考えられる。

表２　いも類の産出額の推移

区分	単位	令和元年	2	3	4	5
実額	億円	1,992	2,370	2,358	2,199	2,301
対前年増減率	%	1.9	19.0	△0.5	△6.7	4.6

【関連データ】

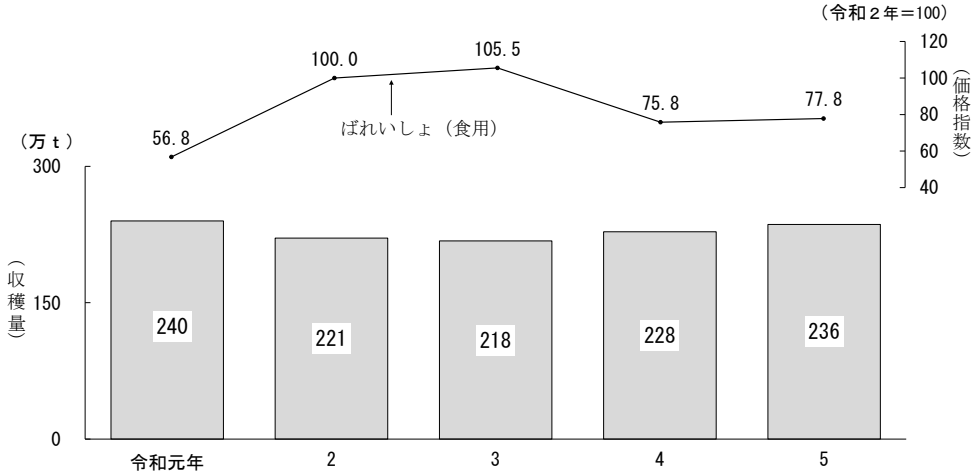
１　かんしょの収穫量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「農業物価統計調査」

注：　価格指数の基準時は令和２年（暦年）であり、令和元年以前の価格指数はリンク係数を用いて接続した（以下同じ。）。

２　ばれいしょの収穫量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「農業物価統計調査」

注：　価格指数は、「農業物価統計調査」の結果を「作物統計調査」の年産区分で再集計した結果である。

ウ 野菜

平成30年以降、野菜の産出額は２兆2,000億円前後で推移してきた。

令和５年は、前年に比べ949億円（4.3%）増加し、２兆3,243億円となった。

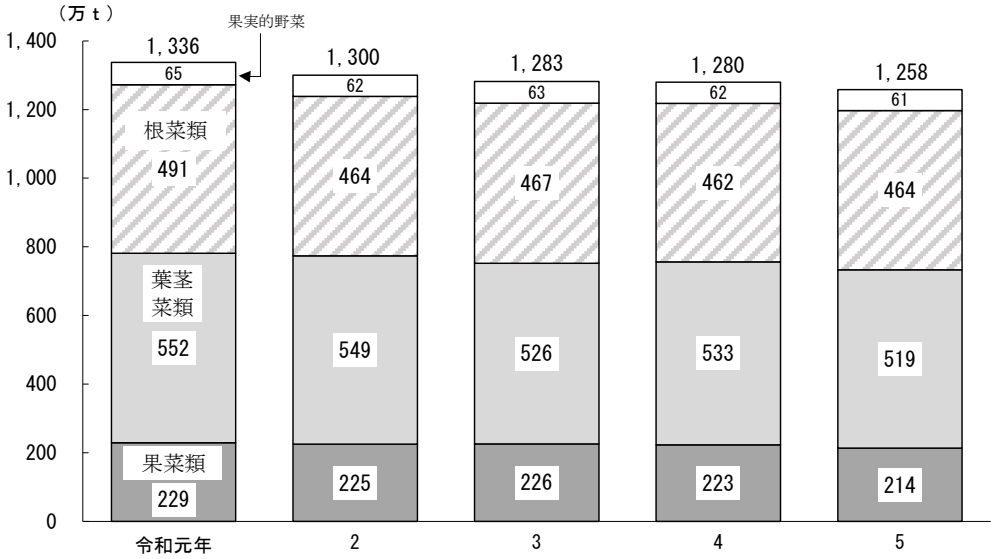
これは、きゅうり、ピーマン、ねぎ等の品目で８月から９月にかけて高温少雨の影響等により生産量が減少し、価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表３　野菜の産出額の推移

区分	単位	令和元年	2	3	4	5
実額	億円	21,515	22,519	21,463	22,294	23,243
対前年増減率	%	△7.3	4.7	△4.7	3.9	4.3

【関連データ】

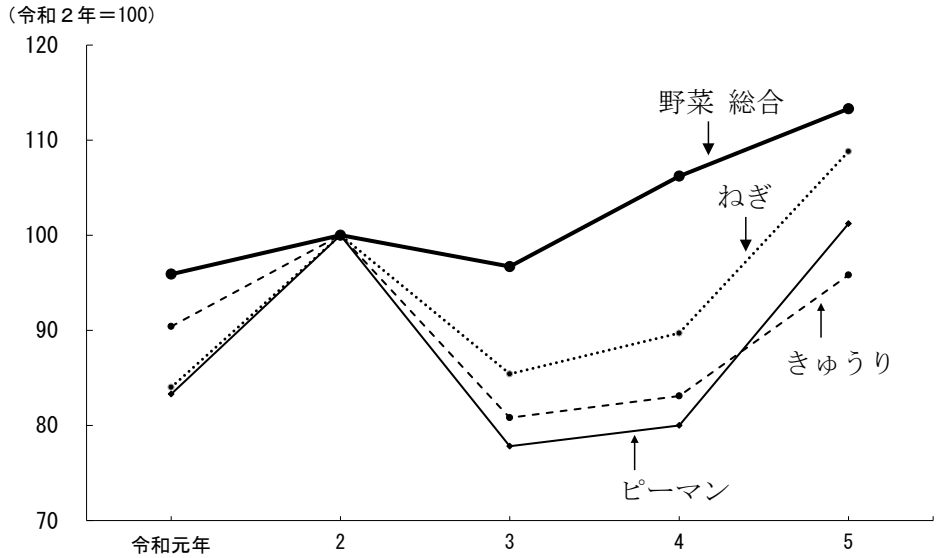
１　野菜の収穫量の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」

注：ここでいう野菜は、根菜類、葉茎菜類、果菜類、果実的野菜である。

２　野菜の価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「農業物価統計調査」

注：「農業物価統計調査」の結果を「作物統計調査」の年産区分で再集計した結果である。

エ 果実

優良品種・品目への転換等により、消費者ニーズにあった高品質な品目が生産されるようになり、国内外での堅調なニーズに支えられ価格が上昇傾向にある。それに伴って令和２年以降、果実の産出額は増加傾向で推移してきた。

令和５年は、前年に比べ 358 億円（3.9%）増加し、9,590 億円となった。

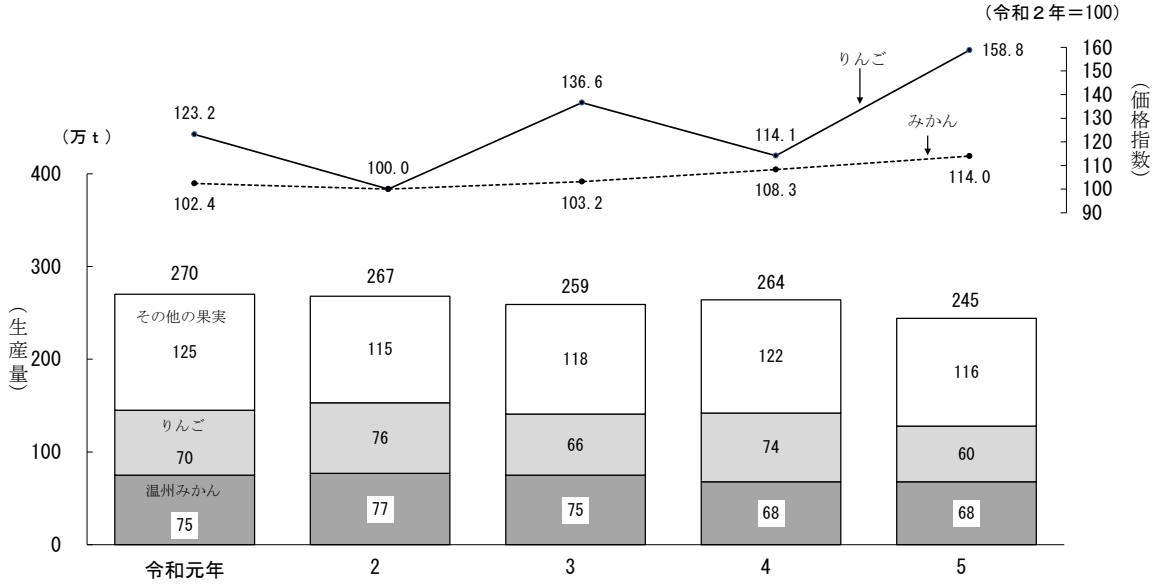
これは、夏の高温による生産量の減少等（りんご、みかん）により価格が上昇したこと、高単価品種の生産量が増加（ぶどう）したこと等が寄与したものと考えられる。

表４　果実の産出額の推移

区分	単位	令和元年	2	3	4	5
実額	億円	8,399	8,741	9,159	9,232	9,590
対前年増減率	%	△0.1	4.1	4.8	0.8	3.9

【関連データ】

１　果実の生産量並びにりんご及びみかんの価格指数の推移

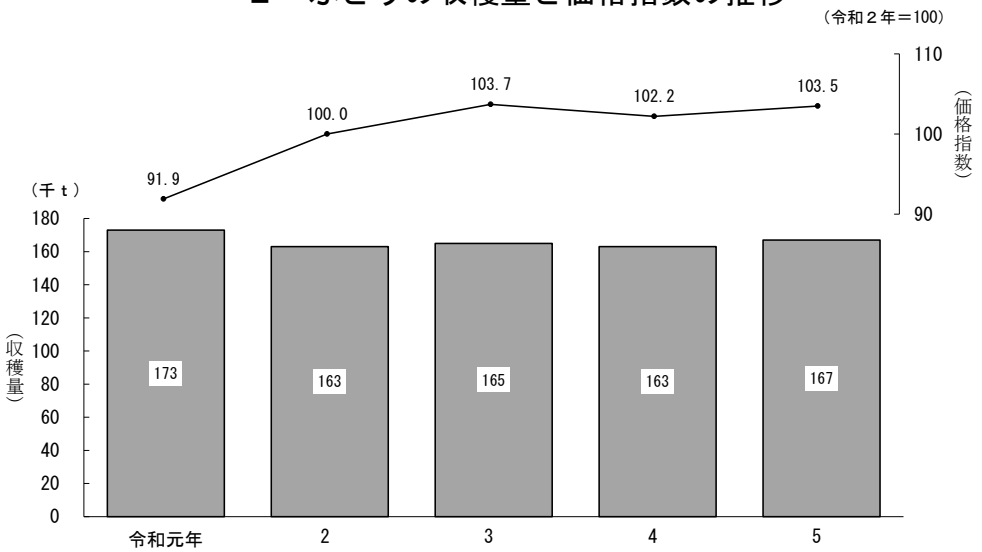


資料：農林水産省政策課「食料需給表」及び農林水産省統計部「農業物価統計調査」

注：１　生産量は年度の数値であり、令和５年の生産量は概算値である。

　　２　みかん及びりんごの価格は、「農業物価統計調査」の結果を主な出荷期間で再集計した結果である。

２　ぶどうの収穫量と価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「農業物価統計調査」

オ 花き

農業従事者の高齢化等による作付面積の減少を背景に、花きの産出額は平成 11 年以降、減少傾向で推移してきたが、令和３年以降は、新型コロナ感染症対策の緩和によるイベント需要が高まったこと等により、増加傾向に転じた。

令和５年は、前年に比べ 30 億円（0.9%）増加し、3,522 億円となった。

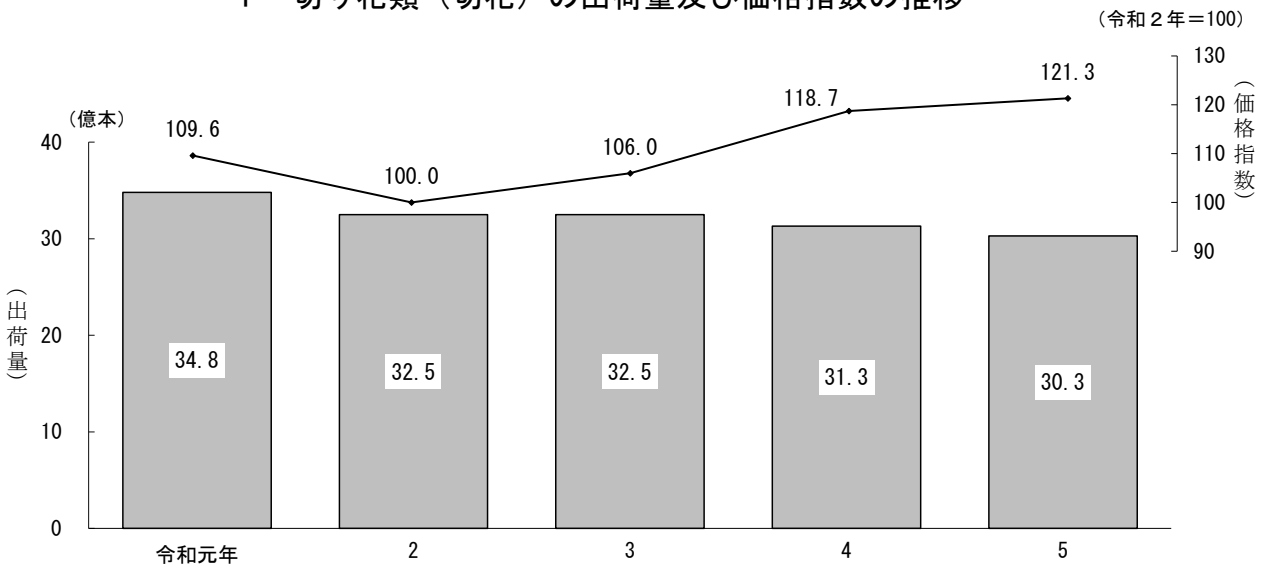
これは、天候不順等の影響により出荷量が減少し、切り花を中心に価格が堅調に推移したことが寄与したものと考えられる。

表５　花きの産出額の推移

区分	単位	令和元年	2	3	4	5
実額	億円	3,264	3,080	3,306	3,492	3,522
対前年増減率	%	△1.9	△5.6	7.3	5.6	0.9

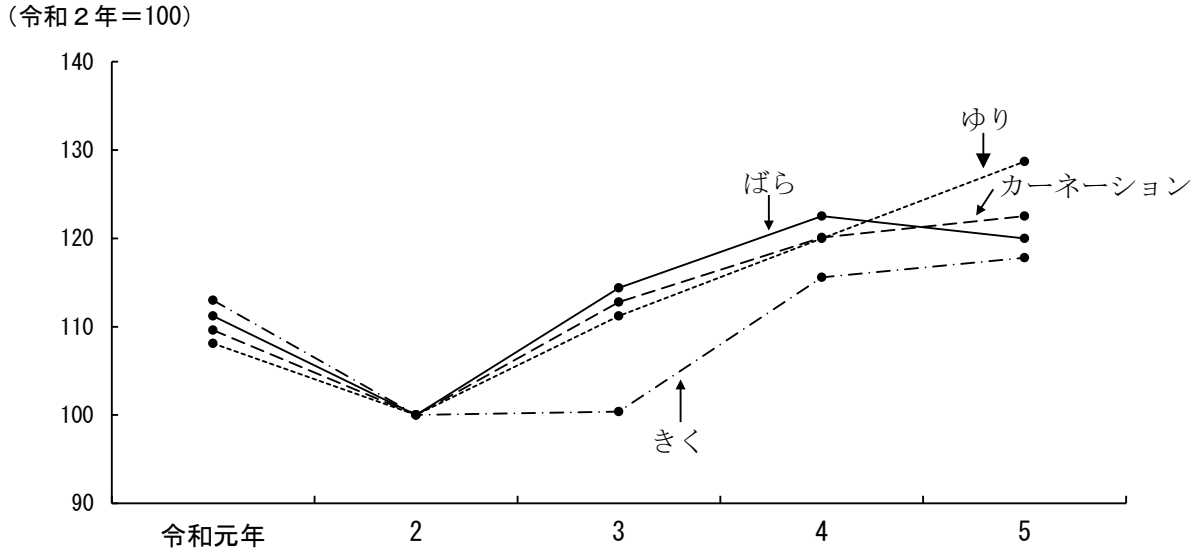
【関連データ】

１　切り花類（切花）の出荷量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「農業物価統計調査」

２　切花（きく、ばら、カーネーション、ゆり）の価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「農業物価統計調査」

カ 茶

生産者の高齢化・減少等を背景に栽培面積が減少傾向で推移しており、平成 30 年以降、茶の産出額は減少傾向で推移してきた。

令和５年は、前年に比べ 28 億円（5.9%）減少し、443 億円となった。

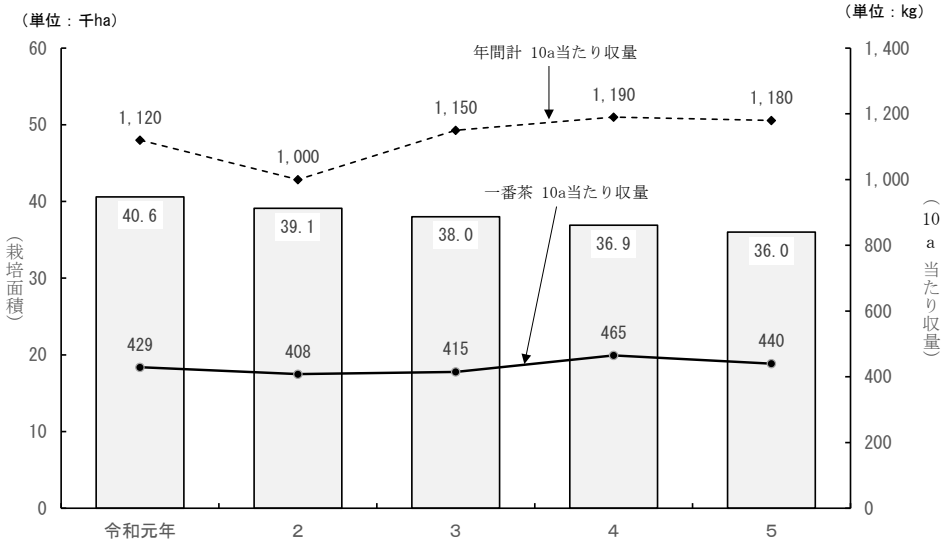
これは、栽培面積の減少に加え、一番茶において４月下旬から５月上旬の低温により生育が伸び悩み、収穫量が減少したこと等が影響したものと考えられる。

表６　茶の産出額の推移

区分	単位	令和元年	2	3	4	5
実額	億円	522	409	495	471	443
対前年増減率	%	△15.1	△21.6	21.0	△4.8	△5.9

【関連データ】

１　茶（生葉）の栽培面積及び 10a 当たり収量の推移

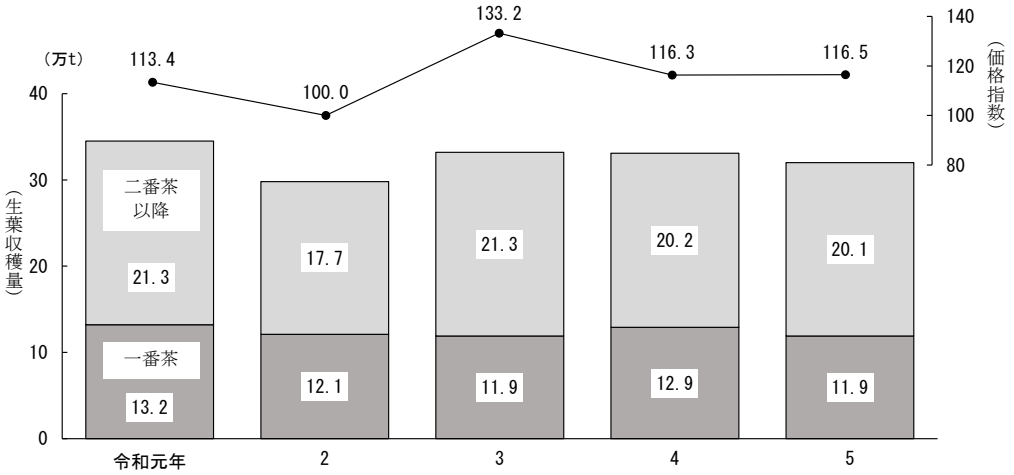


資料：農林水産省統計部「作物統計調査」

注：　栽培面積は全国の数値である。

10a 当たり収量は、８府県（埼玉県、静岡県、三重県、京都府、福岡県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県）を対象に再集計したものである。

２　茶（生葉）の収穫量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「農業物価統計調査」

注：　生葉収穫量は、８府県（埼玉県、静岡県、三重県、京都府、福岡県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県）を対象に再集計したものである。

キ 肉用牛

生産基盤の強化が推進される中、和牛改良の進展や飼養管理技術の向上等により高品質な牛肉の割合が増加してきたことや、牛肉の輸出も増加傾向で推移してきたが、令和５年は、前年に比べ 561 億円（6.8%）減少し、7,696 億円となった。

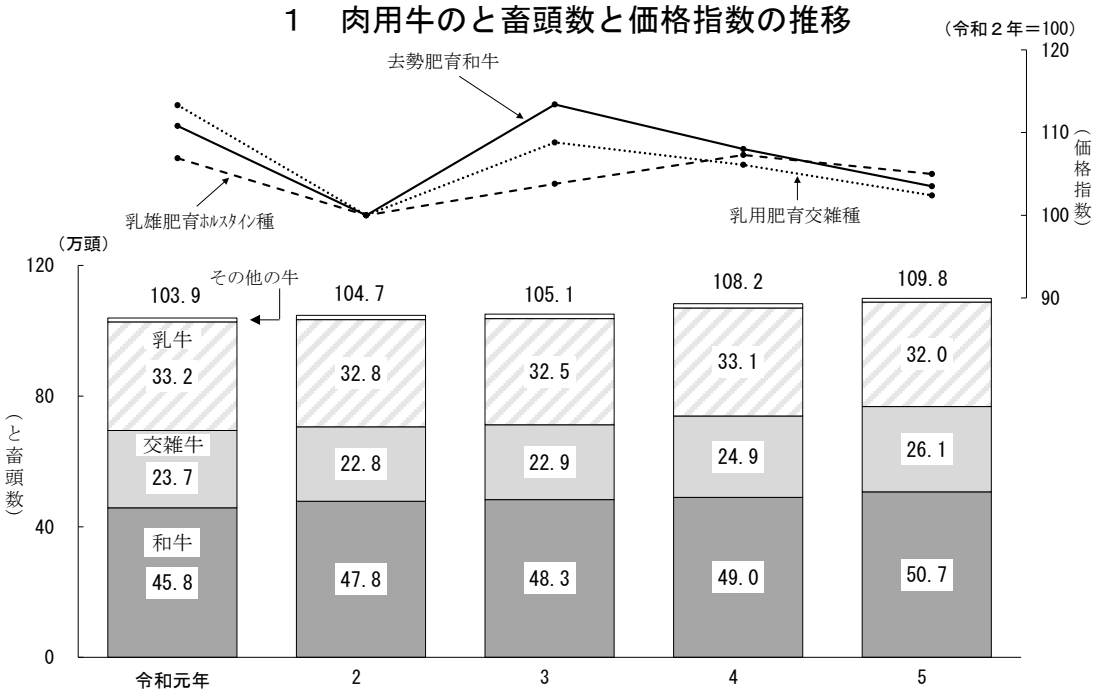
これは、和牛及び交雑種の出荷頭数が引き続き増加する中、和牛肉の需要が軟調に推移し価格が低下したこと等が影響したものと考えられる。

表７　肉用牛の産出額の推移

区分	単位	令和元年	2	3	4	5
実額	億円	7,880	7,385	8,232	8,257	7,696
対前年増減率	%	3.4	△6.3	11.5	0.3	△6.8

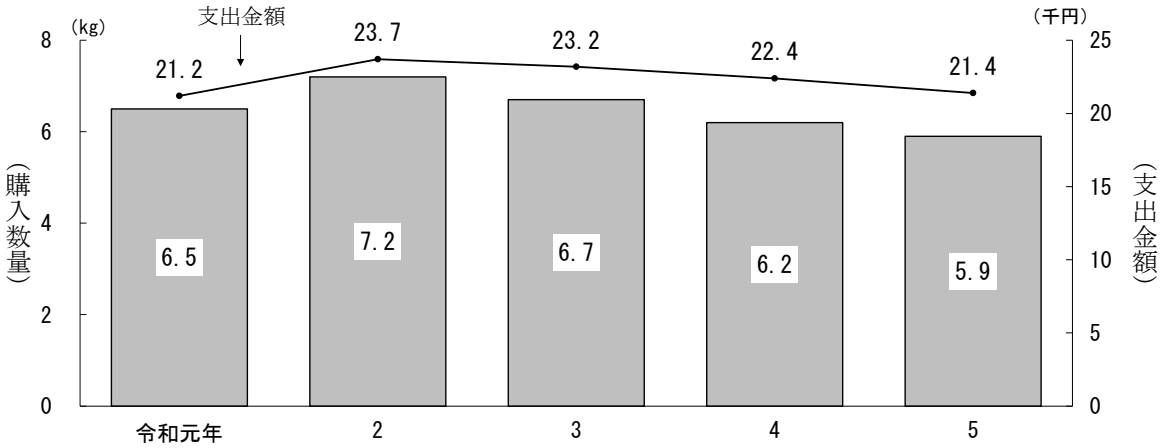
【関連データ】

１　肉用牛のと畜頭数と価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「畜産物流通調査（と畜場統計調査）」及び「農業物価統計」
注：と畜頭数は、成牛の数値である。

２　牛肉の１世帯当たり年間の購入数量及び支出金額の推移



資料：総務省統計局「家計調査」（家計収支編）（二人以上の世帯）

ク 生乳

生産基盤強化の進展を背景に、生乳生産量は平成 30 年以降増加傾向で推移してきており、それに伴い生乳の産出額は増加傾向で推移してきた。

令和５年は、前年に比べ 394 億円（5.0%）増加し、8,310 億円となった。

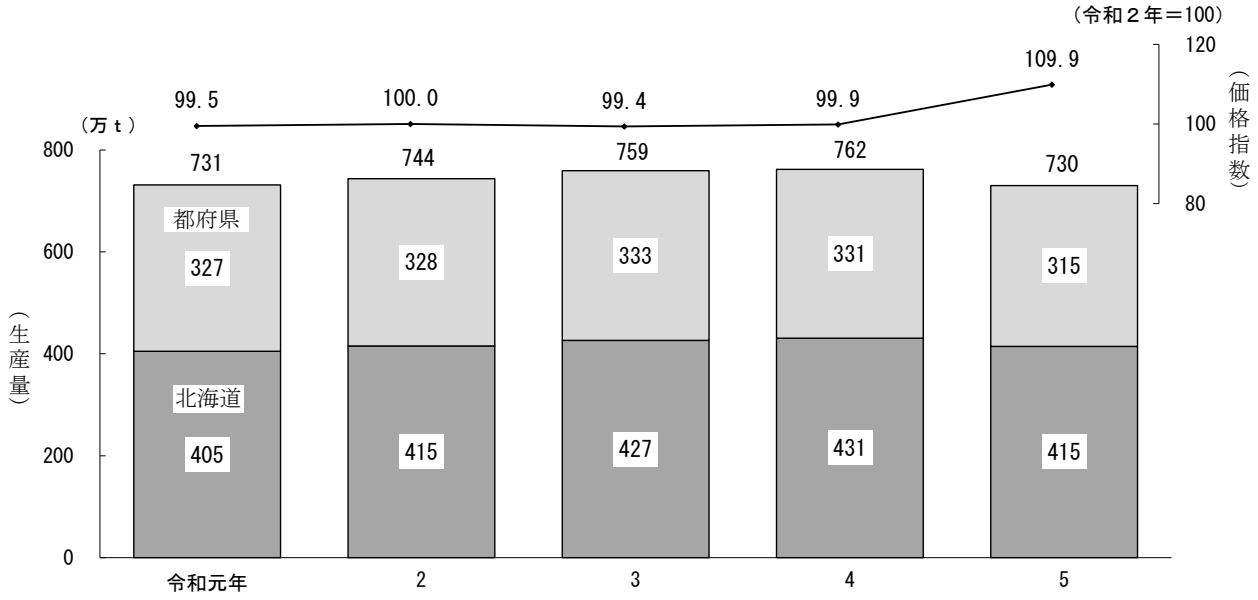
これは、夏場の猛暑に加え、需給バランスの改善に向けた生産抑制により生産量が減少したものの、飲用等向け及び乳製品向け乳価が引き上げられたこと等が寄与したものと考えられる。

表８　生乳の産出額の推移

区分	単位	令和元年	2	3	4	5
実額	億円	7,628	7,797	7,861	7,916	8,310
対前年増減率	%	2.1	2.2	0.8	0.7	5.0

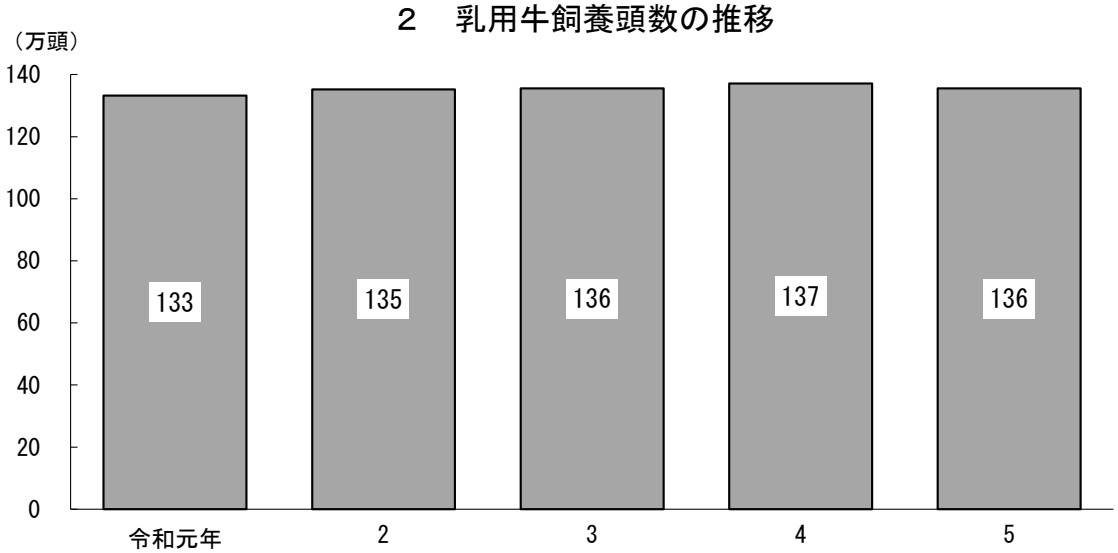
【関連データ】

１　生乳の生産量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「牛乳乳製品統計調査」及び「農業物価統計調査」

２　乳用牛飼養頭数の推移



資料：農林水産省統計部「畜産統計調査」

ケ 豚

飼養管理技術の向上等により豚の出荷頭数は増加傾向で推移する中、巣ごもりや節約志向の高まりによる需要の増加で豚肉価格は堅調に推移してきており、近年、豚の産出額は6,000億円台で推移してきた。

令和５年は、前年に比べ481億円（7.2%）増加し、7,194億円となった。

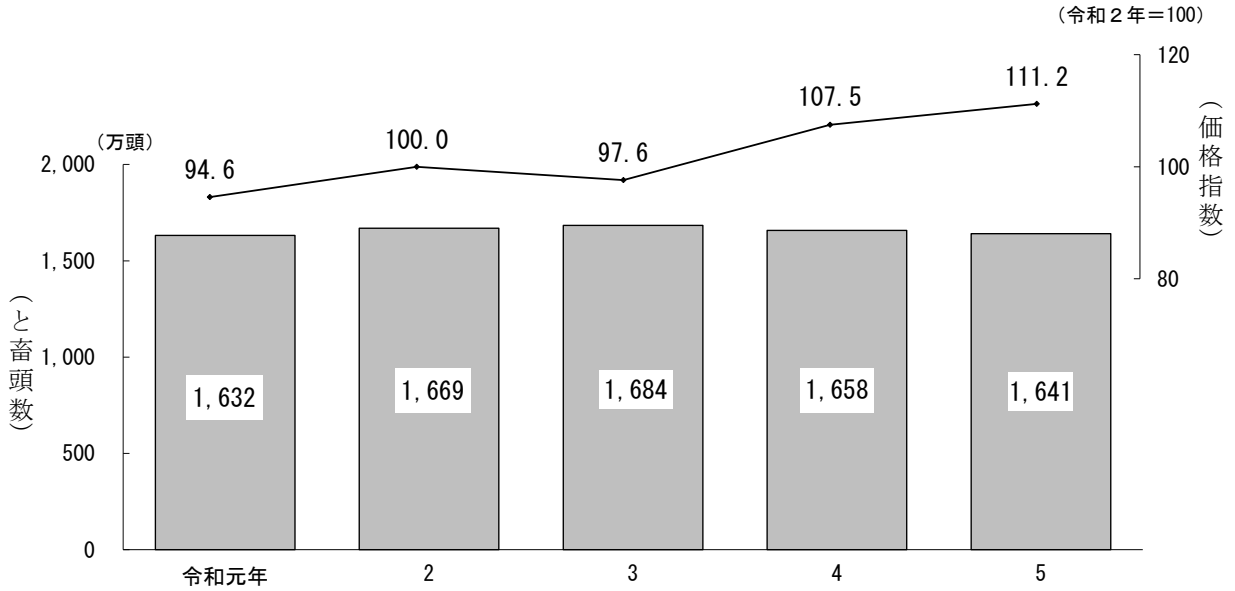
これは、出荷頭数は前年を下回ったものの、引き続き需要が高く、価格が堅調に推移したこと等が寄与したものと考えられる。

表９　豚の産出額の推移

区分	単位	令和元年	2	3	4	5
実額	億円	6,064	6,619	6,360	6,713	7,194
対前年増減率	%	0.0	9.2	△3.9	5.6	7.2

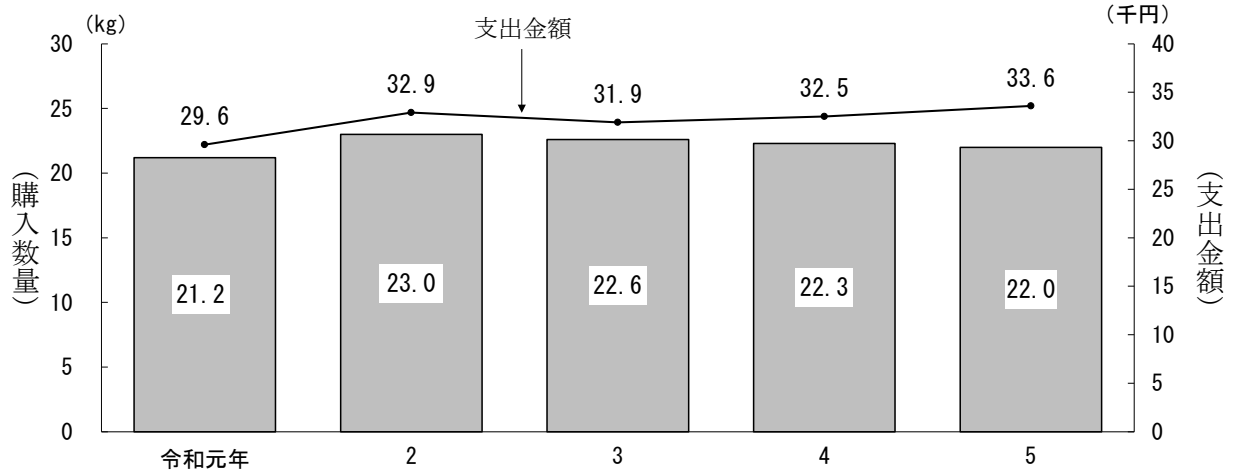
【関連データ】

１　豚（肉豚）のと畜頭数及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「畜産物流通調査（と畜場統計調査）」及び「農業物価統計調査」

２　豚肉の１世帯当たり年間の購入数量及び支出金額の推移



資料：総務省統計局「家計調査」（家計収支編）（二人以上の世帯）

コ 鶏卵

令和３年以降、鳥インフルエンザの影響により価格が上昇し、鶏卵の産出額は 5,000 億円を超えて推移してきた。

令和５年は、前年に比べ 1,801 億円（32.1%）増加し、7,413 億円となった。

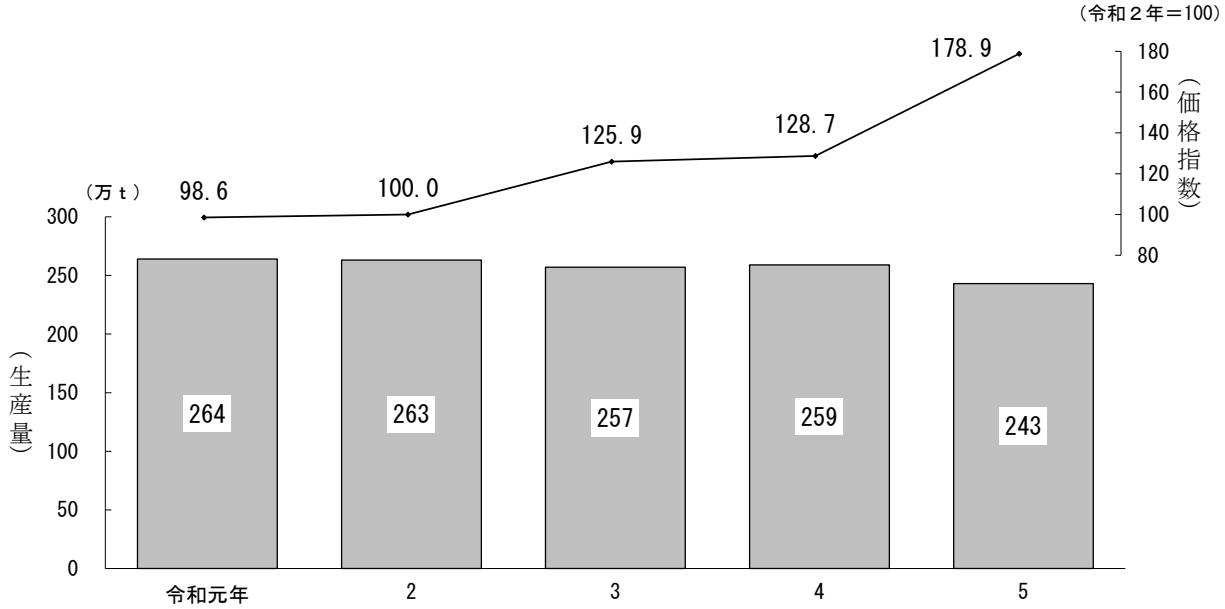
これは、令和４年 10 月以降に発生した鳥インフルエンザの影響により生産量が減少し、価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表 10　鶏卵の産出額の推移

区分	単位	令和元年	2	3	4	5
実額	億円	4,549	4,546	5,470	5,612	7,413
対前年増減率	%	△5.5	△0.1	20.3	2.6	32.1

【関連データ】

鶏卵の生産量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「畜産物流通調査（鶏卵流通統計調査）」及び「農業物価統計調査」

サ ブロイラー

経営の大規模化の進展等を背景とした生産量の増加や、消費者の健康志向の高まり等により、特にむね肉を使った商品開発が進んだことから、令和２年以降、産出額は増加傾向で推移してきた。

令和５年は、前年に比べ 531 億円（13.5%）増加し、4,471 億円となった。

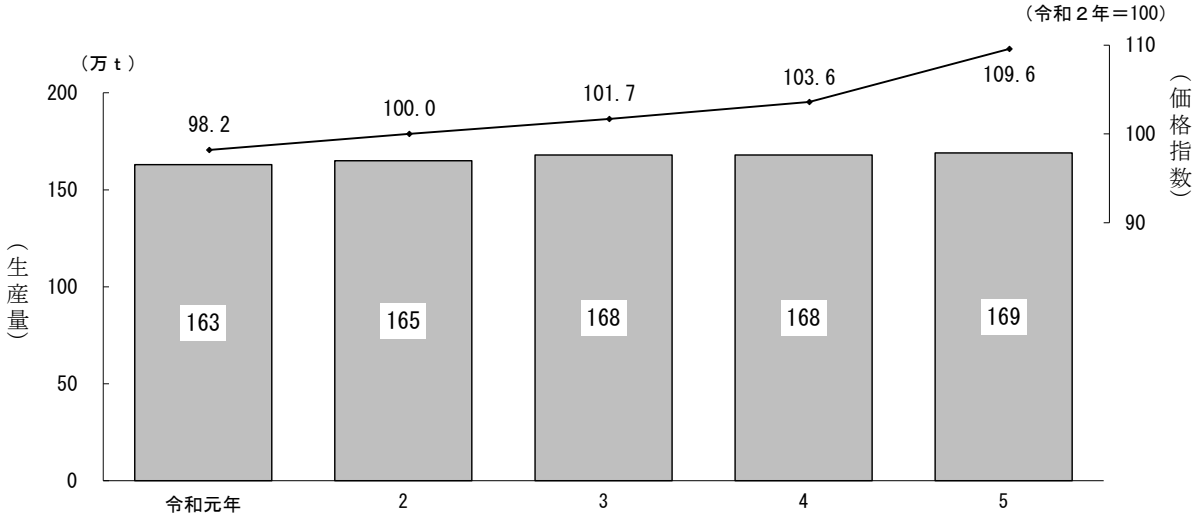
これは、国内生産量は前年並みとなったものの、引き続き需要が高く、価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表 11　ブロイラーの産出額の推移

区分	単位	令和元年	2	3	4	5
実額	億円	3,510	3,621	3,740	3,940	4,471
対前年増減率	%	△2.7	3.2	3.3	5.3	13.5

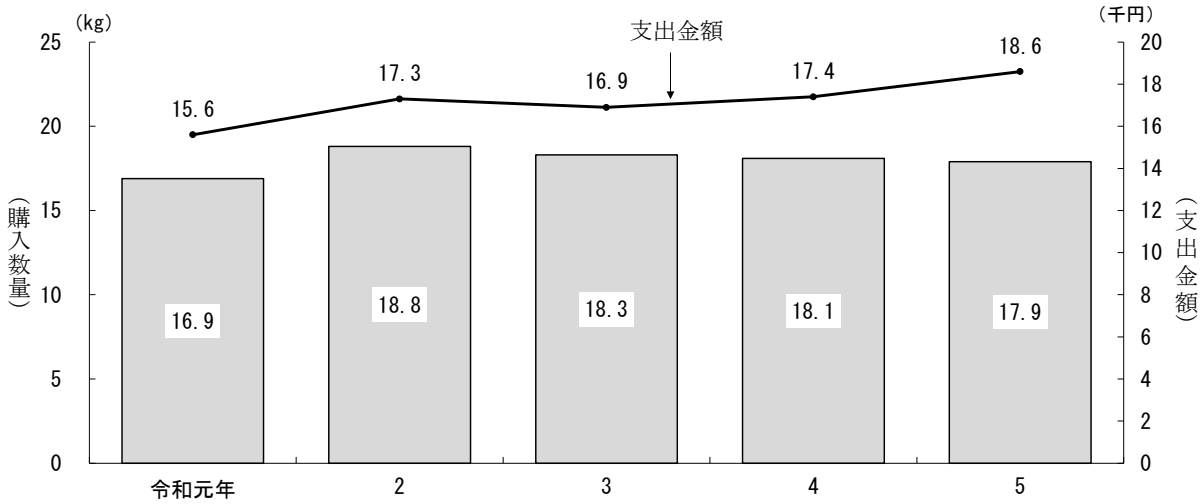
【関連データ】

1　ブロイラー（鶏肉）の生産量及び価格指数の推移



資料：農林水産省政策課「食料需給表」及び農林水産省統計部「農業物価統計調査」
注：生産量は年度の数値であり、令和５年は概算値である。

2　ブロイラーの１世帯当たり年間の購入数量及び支出金額の推移



資料：総務省統計局「家計調査」（家計収支編）（二人以上の世帯）

(4)　生産農業所得

令和５年の生産農業所得は、前年に比べ 1,877 億円（6.0%）増加し、３兆 2,921 億円となった。

これは、耕種において米や野菜、畜産では鶏卵をはじめとする農産物の価格が上昇したこと等が影響したものと考えられる。

表 12　生産農業所得の推移

区分	単位	令和元年	2	3	4	5
実額	億円	33,215	33,433	33,478	31,044	32,921
対前年増減率	%	△4.8	0.7	0.1	△7.3	6.0